

予報期間 9月16日から9月22日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 日本の南に進む熱帯しょう乱については最新の台風予報を参照。
- 18日から19日は、高気圧が千島の東から日本のはるか東へ移動し、気圧の谷が日本海に進む。
- 20日は、前線が日本の東から東日本沿岸付近にのびる。
- 21日から22日は、低気圧が千島近海を北東進し、前線が日本の東から西・東日本にのびる。高気圧が沿海州付近から日本海北部へ移動する。

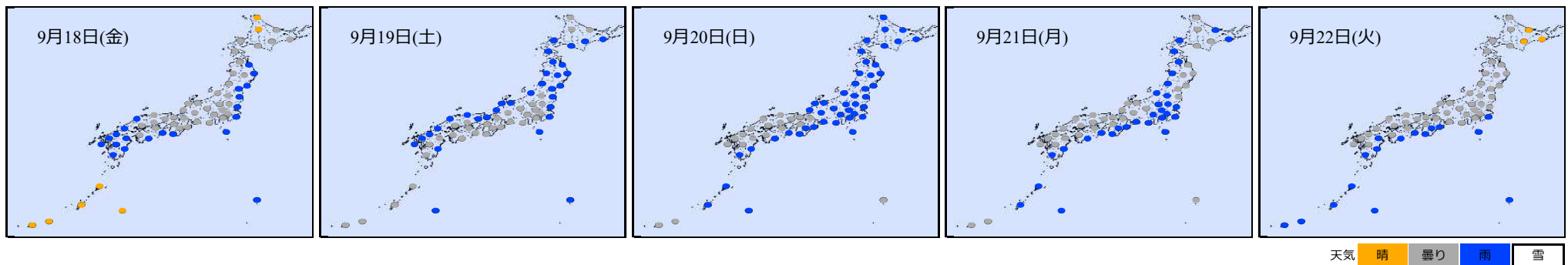
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日から20日頃は、小笠原諸島では大しけとなり、熱帯低気圧の発達程度等によっては、大荒れとなるおそれがある。
- 20日頃は、沖縄・奄美では熱帯低気圧の発達程度等によっては、大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

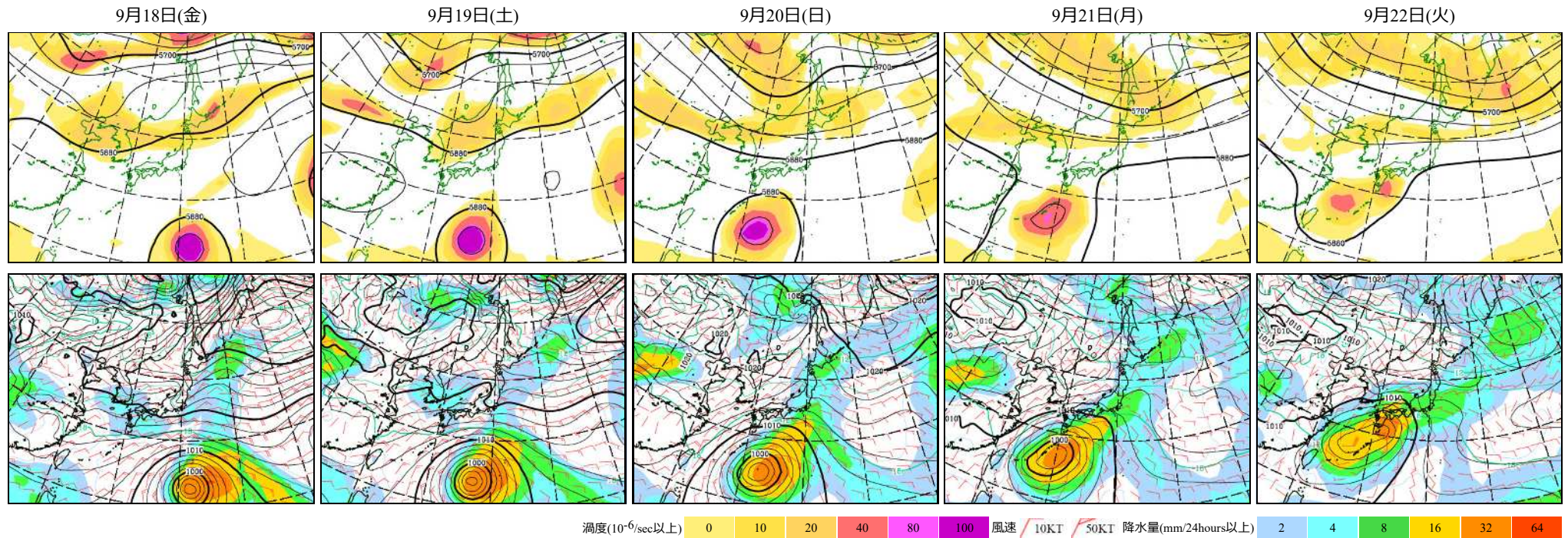
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

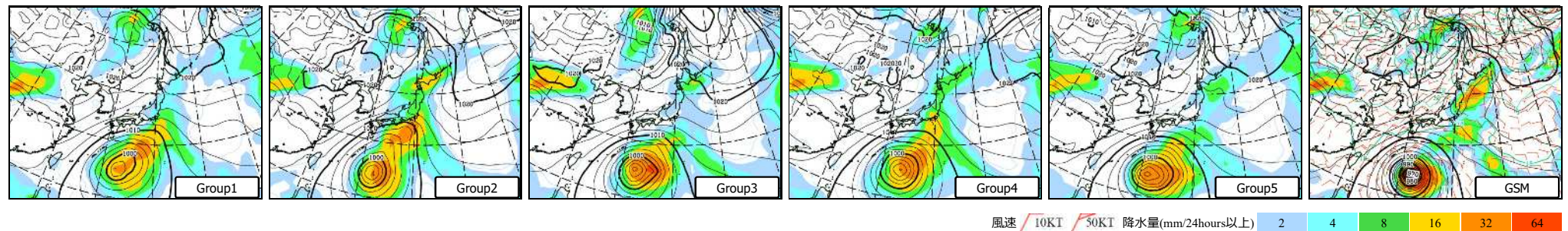


- 北海道地方は、曇りや雨の降る日が多いが、18日と22日は晴れる所がある。
- 東北地方と東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、18日は晴れる所が多いが、その後は曇りや雨の降る日が多くなる。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、20日頃にオホーツク海北部でリッジが前の資料よりも強まり、21日頃にアムール川下流でトラフの進みが遅くなるメンバーが増えた。20日頃にオホーツク海北部でリッジが強まる予想は各モデルで一致し、21日頃に北日本付近を通過するトラフについては浅くなる可能性が高くなった。
- ENSでは湿った東寄りの風により20日頃から北日本や東日本の太平洋側においてまとまった降水を予想しており、メンバーごとに降水の強まる地域は異なるものの、おおむね三陸沖から伊豆諸島付近に前線がかかるとみられる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。